

「李登輝氏：外来政権の復辟は許せない」

※台湾紙『自由時報』(2002年12月23日)の報道

「宜蘭県李登輝友の会」は昨日、羅東で設立大会を開催した。この日は李登輝氏が臨席するとあって1,000名近くが参加、李氏が入場すると、会場は拍手と歓声の熱気に包まれた。この他、黄主文・台湾団結聯盟主席、黄崑虎・李友会総会長、張川田・立法委員、劉守成・県知事らも出席した。

席上李登輝氏は「やっとの思いで外来政権を排除し、本土政権の成長を見るに至った。独裁的外来政権の復辟を承認し、国家の民主化に対する私や蔣経国の長年の努力を無駄にするかのような、連戦の動きを許すことはできない」と述べた。

李氏はこの会の使命について、「台湾にアイデンティティを持つにはまず台湾を認識し、愛することと知らせるためだ」と説明するとともに、「中国が2008年のオリンピック開催で台湾にあらゆる圧力をかけてくることは必定。国民が台湾を主体とする主権、文化観を打ち立てることは急務だ」と訴えた。

李氏は「国際、兩岸関係は日をおって複雑化する中、李友会は台湾を前進させるための重要な組織になっている。台湾は中国の一部ではなく世界の一部である。自由と民主の制度下で台湾本土派の政党はいくつもある。そこから民衆に選択させたらよい」と語った。

そしてさらに一步踏み込み、「国民党は共産党との闘争を経て台湾へ退いたあと、蒋介石政府はなおも台湾を跳躍台として一時しのぎの場所としか見ず、一貫して台湾人を搾取した。日本人による50年間の台湾統治でさえ一度もなかった戒厳令を、38年間にわたって実施し、台湾人に集会、結社の自由を許さず、大中国思想を押し付けた。その結果哀れにも、台湾人は靈魂を奪われ、精神は抑圧された。とくに二・二八事件では、どれほどの有為の人々が殺されたことか。こうした外来政権による高圧的統治は台湾の苦しみの歴史である」と述べた。

各地における李友会の結成はエスニックグループの対立を引き起こすとの一部の指摘について李氏は、「ただ単に『台湾』にアイデンティティを持つというだけの問題」とした上で、「この会の使命は国民の間に台湾の歴史、主権、文化を主体とした観念を打ち立て、台湾意識を向上させ、国家アイデンティティを定着させることで、台湾人に尊厳ある生き方を与えることにある」と述べた。

(『台湾の声』編集部訳)